

郡上八幡の立地 — 地形と自然環境

まずは、郡上八幡が水のまちである由縁を自然環境からみてみましょう。

広大な集水域を有する長良川水系

地球上に存在する水の総量14億km³の内、海水などの塩水が占める割合が約97.5%で、人間が飲んだり使ったりできる淡水の表流水の割合はわずか約0.01%、約0.001億km³にすぎないと言われています。*水はこのように貴重な資源であり、さらに良質な水の恵みが受けられる場所は、極めて限られています。日本のまん中、岐阜県中央部に位置し、周囲を山々に囲まれた郡上八幡は、そうした貴重な場所に位置しています。

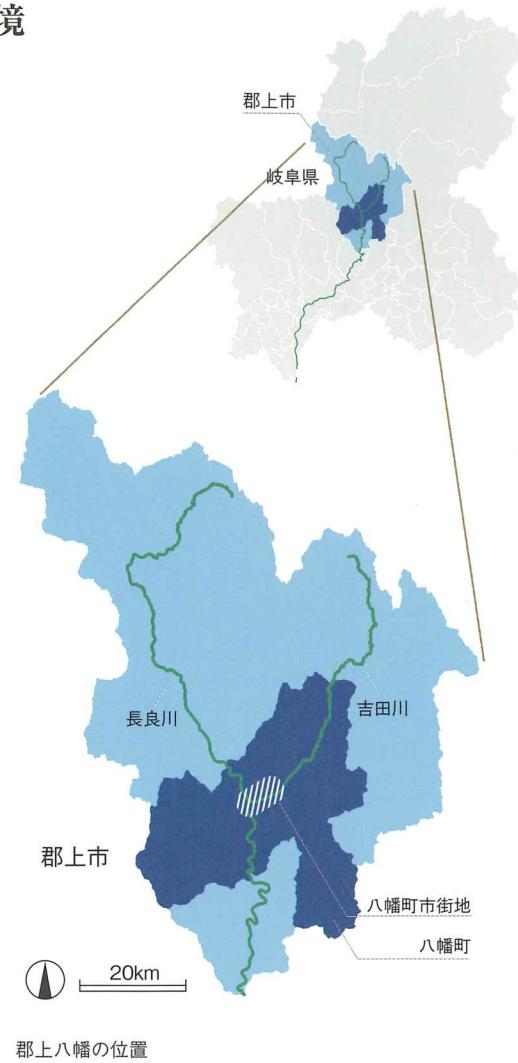
岐阜県郡上市八幡町は人口約1万5千人、面積242.30km²でその9割が山林です。市街地の西を南北に清流長良川が流れ、そこに向かって吉田川が注ぎます。この吉田川の両岸にまちが開けており、ここが通称郡上八幡と呼ばれています。

長良川水系は遠く大日ヶ岳、鷺ヶ岳、烏帽子岳などに至り、これらの水源地から郡上八幡までの間には、ゆたかな山林と農地や小さな集落があるのみで、大都市や工場などの水質を悪化させる要素が殆どなく、汚れのない美しい水がそのまま郡上八幡に届けられます。町を横断する吉田川やその支流にも良質な水が豊富に流れ込みます。

*国土交通省「日本の水資源の現況」(平成27年版)



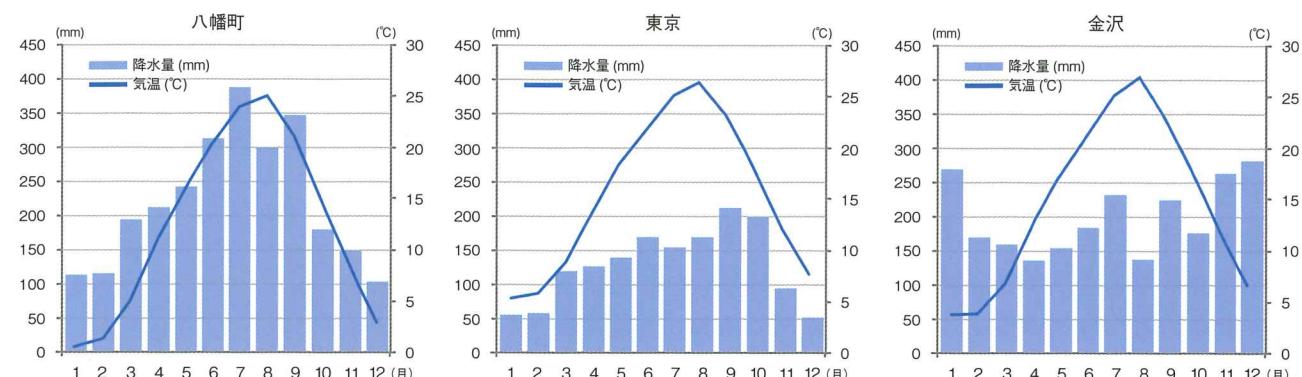
郡上八幡に流れ込む河川の集水域の広がり／原画：柴田勇治氏提供



全国平均を大きく上回る降水量

長良川水系の集水域の北部には標高1800m級の山岳地帯があり、白山山系に連なる寒冷地域に属するため気温が低く降雪量も多くなっています。一方、郡上八幡の周辺地域では年間平均気温が12.5度と比較的穏やかであり、湿気を含んだ南東の季節風が越

美山地に吹き付けるため、年間降水量は2628mmと、全国平均の1690mmを大きく上回ります。そのため年間を通じて郡上八幡には豊かな水が集まっています。



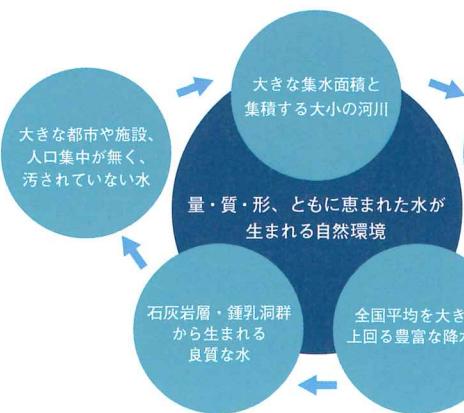
郡上八幡の降水量と気温—他都市と比較して／データ出典：平年値（統計期間1981～2010）気象庁より

まちに直接注ぐ表流水と伏流水

郡上八幡は周囲を深い緑に包まれた小さな盆地となっています。このため、町の中央を流れる吉田川と小駄良川には、犬啼谷、赤谷川、乙姫川、武洞谷、初音谷等が流れ込み、その他にもサコと呼ばれる山の谷筋からは幾筋もの谷水が流れ込んでいます。また、山林部に降る雨は地下に浸透することで伏流水となり、湧水や井戸の水源になります。これらが多様な水環境の礎となっています。

さらに吉田川の左岸（南側）の地質に注目すると、まちの南東部の堀越峠から南西部にかけて石灰岩層が古生層を貫いて地表に達しており、そこには数多くの鍾乳洞が発見されています。そのため、地表に降った雨は石灰岩層の割れ目から地中に浸透し、石灰岩の成分である炭酸カルシウムを含む天然の美味しい水となって、郡上八幡に流れ出てきます。この水は郡上八幡の水道の水源に使われており、美味しい水を飲むことができます。

このように、郡上八幡は、豊かな水量、良好な水質、多様な水源に恵まれた、世界的に見ても奇跡のような場所に位置しているといえます。



郡上八幡の市街地に注ぐ水流



郡上八幡周辺の地質の様子(産総研 地質図Naviに加筆)